

昔を振り返りつつ、現在のオリエンテーリング界について考える。



橘 直隆。O-Forumにて(6月16日)

いつの間にか

はやいもので、オリエンテーリングを始めてから35年になりました。多くのオリエンティアと同じように、選手時代は全日本のエリートクラスに参加することが目標でしたが、年齢とともに、クラブに所属して大会開催のお手伝いをしたり、若い選手をコーチしたりしているうちに、日本代表のヘッドコーチの役目まで回ってくるようになりました。

その後も、故障がちの身体にむち打って大会に参加したり、学生をコーチしたり、コントローラを経験したり、J O Aの競技専門委員会に属したりしているうちに、2年前には、J O Aの副会長ということになってしまいました。オリエンテーリングは自分の趣味であり、仕事(野外教育)に生かすためのスキル獲得のひとつだと考えていましたが、何故か社会的責任を感じる立場になってしまったのが不思議ではありません。

選手時代(1975年頃)

どうしても全日本のエリートに出場したかったので、ハードに練習する一方でいろいろな本を読みました。予想もしないコースやコントロールによく

惑わされましたので、オリエンテーリングのルールについて調べました。

ところが、日本には徒歩オリエンテーリングのルールはあっても、競技オリエンテーリングのルールが存在しないのです。(国際ルールの訳文はありました) 大学は体育学専攻でスポーツに近い立場にいましたが、競技規則がないスポーツの存在にはとても驚かされました。これでは大会開催側と選手側が同じ土俵に乗れないので、大会開催側の独自の判断や思い込みを選手側が事前に入手することができないのです。

私がJ O Aの競技専門委員をしている時に日本オリエンテーリング競技規則が制定されました(1994年)。そして、大会コントローラが規則上にありますので、選手側は安心してコースに挑戦することができるようになりました。(競技規則は、今年5月の理事会で3度目の改訂が承認されました。インカレでは、もっと日本競技規則以前から競技規則がありコントローラ制度が設けられていました)

筑波大のコーチ時代(1980年代)

この頃が、日本のオリエンテーリング界の一番熱い時代だったのではないのでしょうか。いろいろな大学が競うように大会を開催し、新しい試みがドンドンなされるようになりました。何せ、新しい試みはすべて本邦初演になるのですから、やりがいが大きかったのでしょう。この頃の学生達は現在50歳前後になるかと思いますが、彼らには今でもどこかエネルギーが感じられます。

もちろん、今では本邦初演は難しくなりました。でも、新しい競技形式であるスプリント大会開催には熱気を感じます(もっと参加者が増えてほしいのですが)。ただマニュアルに沿うだけでなく、モチベーションを刺激する新しい試みに挑戦して欲しいものだと感じています。スプリントも公認大会が増え、新しい試みは難しいかもしれませんが、コントローラの了承を得て事前発表すれば、オリエンテーリングの本質を変えないかぎりある程度は許されると思います。

全日本リレー(1992年)

全日本リレー大会が初開催される前年、石川県で公認の都道府県対抗リ

レーが開催されました。学生対象のインカレを除くと、初の大きなリレー大会となります。

実は、石川県にリレー大会開催を強くお願いしたのは私自身でした。何の肩書きもない一介のオリエンティアでしたが、とにかく全国的なリレーが欲しかったことがひとつ、県協会でもとまるような行事が欲しいこともあり、いろいろな方々の賛同や応援を得て大会は開催されましたが、私自身が驚いたのは、一介のオリエンティアの動きが公認大会という中枢が認める結果に結びついたことです。

(全日本リレーは近い将来、ベテランの上にもう一クラス設ける計画を競技委員会ですんでいます)

まとめ

残念なことですが、オリエンテーリング界が量的にも質的にも少し停滞してきたのだという声を耳にします。しかし、J O Aや県協会の役員の力だけではこれを解決することができません。日本では、以前から親方日の丸的な考えがあり、中枢の人に任せておけばよいという発想もあるでしょうが、オリエンティアそれぞれにエネルギーがなければ発展につながりませんし、今の時代は上意下達でひとりひとりが動くものではありません。ましてや、オリエンテーリングは趣味の世界ですので、他人からあまり強制されたくはありません。

今、専務理事(村越氏)が真剣に考えているのはオリエンティアを増やすことと、オリエンテーリングの知名度を上げることです。これは、どのオリエンティアにとっても同じ願いだと思っています。このことについて、ひとりひとりのオリエンティアがエネルギーを費やして貰えないかと思っています。ひとりがひとりのオリエンティアを増やせば、オリエンティアは倍増します。オリエンティアが増えれば、オリエンテーリング界も熱気が戻って来るに違いありません。(そして、J O Aの財政状況も好転するはず) またいつか(いや、近い将来に)1000人を越える大会を体験したいものです。

(橘 直隆)